

ヤマブドウ県オリジナル品種「涼実紫」雄株の混植割合は10%以上で！

< 混植割合の考え方のポイント >

林業技術センター直営試験地でのH16～17の栽培試験の結果、雄株の混植割合10%でも十分に受粉でき、結実重量が確保できることがわかりました。今後、雄株の混植割合については以下の事項に留意してください。

これから植栽を計画している方

雄株の混植割合を10%以上で計画する

平成18年春植えの苗木を注文している方

雄株の混植割合を10%以上に変更する

既に園地に植栽している方

欠株が生じた時には、補植苗には雌株を選択し、雄株の割合は全体で10%を下回らないよう留意する

1 はじめに

ヤマブドウは雌雄異株なので、栽培において安定的な収穫量を確保するためには雄株の混植が有効です。これまで、林業技術センター直営試験地で雄株20%で良好な結実が見られたことから、雄株は涼実紫3号の混植20%を標準としてきました。

林業技術センターでは、優良品種の育成のほか、効率的な栽培技術の確立にも取り組んでおり、今回は混植割合について検討しました。雄株の割合を減じて、結果樹である雌株を増やせば単位収量の増加が見込まれます。

当センター直営試験地でのH16～17の2年間の試験結果で、雄株の混植割合を10%に減らして結果樹を増やしても、結実重量は遜色なく確保されることがわかりました。

(研究成果速報NO.202, NO.203参照)
そこで、結果樹を増やせば単位収量アップが期待できます。



混植割合10%での結実状況
(胆沢試験地)

2 混植割合変更の効果

授粉樹である雄株を減らして結果樹である雌株を増やすと、単位面積あたりの収量は増加します。従来では、「ヤマブドウ技術解説書」等で混植割合20%としていましたが、10%の方が収量の増加が見込まれます。

例えば10aあたりで算出すると、雄株の混植割合20%では560kgですが、10%にすると630kg見込まれます(表)。

表 混植割合の変更で10aあたり単位収量は・・・

20%の場合 (雄株20本 / 雌株80本) $7 \text{ kg} * 80 \text{ 本} = 560 \text{ kg}$
↓ 10%の場合 (雄株10本 / 雌株90本) $7 \text{ kg} * 90 \text{ 本} = 630 \text{ kg}$

注：涼実紫多収性品種での栽培
1本あたり7kgの結実
10aあたり100本植え

3 植栽計画について

これまでの、混植割合20%とした当センター直営試験地で良好な結実が見られたので、雄株20%を標準としてきました。

これらの研究成果から、雄株の混植割合は10%以上にしても結実量は遜色がないと考えられます。そこで、栽培においては、雄株の本数割合が10%を下回らないように植栽計画を立てましょう。

なお、これはヤマブドウ県オリジナル品種「涼実紫」だけの結果であり、他の在来種の結実特性は不明なので注意してください。

(担当 林産利用部 主任専門研究員 泉 憲裕)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-698-1337
FAX 019-697-1410